

2022/2023 スピードスケート国際競技会派遣選手選考基準

~~ワールドカップにおける実施種目や日本の出場枠に関連したルールなど、詳細は国際スケート連盟 (ISU) によって後日通知される予定である (発表日未定)。これを受けて、本選考基準のうち ISU から通知されるルールに適合しない部分に変更される場合がある。~~

本選考基準のうち国際スケート連盟 (ISU) から今後通知されるルールに適合しない部分に変更される場合がある。

【決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化部委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 日本代表として十分な活躍が期待できる種目を優先的に選考する。
3. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1. 国際スケート連盟 (ISU) によって以下の通り制限される。
 - ・ 各国際競技会への日本の各種目出場枠数
 - ・ 世界スピードスケート選手権大会特別参加資格ランキングリスト (SQRL)
 - ・ 各国際競技会の参加標準記録 (後述)
 - ・ 新型コロナウイルス (COVID-19) に関連する国や関係団体からの制限
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録 (後述) を設定し、派遣 B 標準記録以内の選手を派遣対象とする。

【特記事項】

- ・ 各国際競技会において、日本の種目出場枠に空きが生じている場合、当該派遣選手団の監督の責任の下、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を追加でエントリーすることができる。この場合、当該種目の派遣 B 標準記録以内であるかどうかは問わない。
- ・ 各種目 (マススタート、チームパシュートを除く) の補欠は、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長が、国際競技会での活躍を前提とした総合的な検討を加えながら、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考する。
- ・ ISU の参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
- ・ 本選考基準において、JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議による選考を定めている場合において意見の一致に至らなかった場合は、多数決

の方法をもって決する。また、ここでの選考は、強化部委員会の出席者（選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く）の3分の2以上の多数をもって変更することができる。

- 代表選手の決定後、ケガや病気などによって大会への参加が困難だと判断された場合は、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、派遣リザーブリスト（後述）に登録をされた選手と入れ替える場合がある。その場合、強化スタッフに登録されたスポーツドクターの診断・見解を参考に検討する。
- 選考対象者が、新型コロナウイルス（COVID-19）による影響（感染や偽陽性判定、濃厚接触者認定、熱発による感染疑い、国際的な移動に伴う規制等による隔離や行動制限）により、本選考基準による適正な選考が著しく妨げられたと認められた場合は、強化部委員会の協議によって、下記選考基準の関連する部分に変更される場合がある。

- ワールドカップ第1戦スタヴァンゲル大会（11/11～13、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TP）・第2戦ヘレンベーン大会（11/18～20、500m・1000m・1500m・女子~~5000m~~3000m・男子~~10000m~~5000m・Ms・TS）・第3戦カルガリー大会（12/9～11、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TP）・第4戦カルガリー大会（12/16～18、500m・1000m・1500m・女子~~3000m~~5000m・男子~~5000m~~10000m・Ms・~~TP~~TS)

※ Ms（マススタート）、TP（チームパシュート）、TS（チームスプリント）

~~※ 男女500mは、第1～4戦のすべてにおいてそれぞれ2本実施~~

~~※ 実施される競技種目は未定~~

【選考方針】

世界スピードスケート選手権大会における日本の出場枠拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m（5）、1000m（4）、1500m（5）、5000m（5）、10000m（5）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

女子：500m（5）、1000m（4）、1500m（5）、3000m（5）、5000m（5）、Ms（2）、TP（1）、TS（1）

【選考基準】

対象競技会：第29回全日本スピードスケート距離別選手権大会

※ 選考は、距離別部門のみを対象とする。

- 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m及び男子5000mの出場枠のうちそれぞれ最大枠数から1を減じた数の派遣選手は、対象競技会における当該種目の順位に従い、最上位者から順に選考する。残りの派遣選手は、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、対象競技会にエントリーしている選手の中から、対象競技会の順位や前年度及び今年度の競技成績を考慮し、選考方針を踏まえた総合的な検討によって選考する。
- 女子5000m及び男子10000mの出場枠のうち、それぞれ最大枠数から1を減じた数の派遣選

手は、対象競技会における女子 3000m または男子 5000m の最上位者から順に選考する。残りの派遣選手は、すでに選考された者を除く選手の中で、女子 5000m 及び男子 10000m における最上位者を選考する。

- (3) 男女チームパシュートの正選手各 3 名と補欠選手各 1 名は、対象競技会にエントリーしている選手かつ、男子は 1500m・5000m、女子は 1500m・3000m いずれかの種目で派遣 B 標準記録以内の選手の中から、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、総合的な検討を加えながら、選考する。選考された選手が男女各 4 名に至らない場合は、派遣 B 標準記録以内の有無は問わずに、対象競技会にエントリーしている選手の中から選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手 1 名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は 2 番目とする）。
- (4) 男女マススタートの正選手各 2 名は、対象競技会における当該種目に出場した選手であって、男子は 1500m・5000m、女子は 1500m・3000m のいずれかで派遣標準記録 B 以内の選手の中から選考する。エントリー順 1 番目の正選手各 1 名はマススタート種目優勝者とする。続く各 1 名または 2 名の正選手（ここで 2 名を選考する場合はマススタート種目優勝者が選考されなかった場合は、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、総合的な検討を加えながら、選考する（2 名選考する場合はエントリー順も定める）。ここまですでに選考された選手が男女各 2 名に至らない場合と、補欠選手各 1 名は、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、総合的な検討を加えながら、派遣 B 標準記録以内の有無は問わずに対象競技会にエントリーしている選手の中から選考する。
- (5) 男女チームスプリントは、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (6) 当該派遣選手団の選考に至らなかった次点者を、男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男女 5000m 及び男子 10000m についてはそれぞれの種目において男女各 2 名、男女マススタート及び男女チームパシュートについては 2 種目合わせて男女各 3 名、派遣リザーブリスト登録者として選考する場合がある。
- (7) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ ワールドカップ第 1 戦における各種目のエントリー順は、ISU ワールドカップ参加標準記録（後述）の達成を示すための、エントリー時に所持している記録順によるものとする。
- ・ ワールドカップ第 3 戦及び第 4 戦の男女 500m、男女 1000m、男女 1500m、女子 3000m、男子 5000m については、上記 (1) により選考された選手が、ワールドカップ第 2 戦終了時~~の~~ **SQRL** 注 1に記載される成績（リザーブリストを含む）を残せなかった場合、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議による必要性の判断に応じて、当該種目の補欠又は派遣リザーブリスト登録者とで入れ替えを行う場合がある。
- ・ 各ワールドカップの男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況などを総合的に検討し、選考時点の JOC ハイパフォーマンス

スディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。

- ・ 本競技会（第1～4戦まで）は、当該年度の世界スピードスケート選手権大会の出場枠獲得対象競技会となる。
- ・ 前年度の本連盟主催競技会において今年度の派遣SS標準記録を上回った者が、新型コロナウイルスの**ための行動制限による**影響で対象競技会への参加が妨げられるなどの不測の事態となった場合、選考方針を踏まえた総合的な検討によって、上記【選考基準】に従って選考された者に変えて、選考する場合がある。なお、この場合の対象は、今年度の派遣SS標準記録を上回った種目に限る。

※注1「第2戦終了時SQRL」について

第6戦終了時にSQRLがISUから公表されるが、第2戦終了時に途中経過のSQRLが公表されるかどうかは不明である。よって、ISUから第2戦終了時に速やかに公表されない場合、本連盟強化部がISUのSQRL作成規則に則り独自に作成したものを「第2戦終了時SQRL」として代替利用する場合がある。

2. 四大陸スピードスケート選手権大会（12/2～4、カナダ・ケベック、500m・1000m・1500m・女子3000m・男子5000m・Ms・TP・TS）

【選考方針】

四大陸スピードスケート選手権大会で日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

男女各4名（総人数）

【枠数】

未定

【選考基準】

対象競技会：第29回全日本スピードスケート距離別選手権大会

※ 選考は、距離別部門のみを対象とする。

- (1) 各開催実施種目（チームパシュート、マススタートおよびチームスプリントは除く）についてワールドカップ第1戦から第4戦に選考された選手の中から、対象競技会で派遣SS標準記録以内の選手、派遣S標準記録以内の選手、派遣A標準記録以内の選手、派遣B標準記録以内の選手の順に、当該種目に限り種目別枠数と派遣可能人数に達するまで選考する。同水準の選手の**優位優劣**を比較する必要がある場合、上位派遣標準記録への記録達成率^{注42}にて**比較を行い優劣を決する**。
- (2) 上記(1)で派遣可能人数に至らない場合、~~派遣B標準記録への記録達成率の上位者から順に、~~対象競技会で派遣SS標準記録以内の選手、派遣S標準記録以内の選手、派遣A標準記録以内の選手、派遣B標準記録以内の選手の順に、当該種目に限り種目別枠数と派遣可能人数に達するまで選考する。
- (3) 男女マススタート、男女チームパシュート、及び男女チームスプリントは、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、

当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。

(4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

※注 42 「記録達成率」の算出方法

- ・男子 500m 派遣 B 標準記録以内の記録 35,40 を持つ a 選手の場合
派遣 A 標準記録 34,95 が上位派遣標準記録となるため、 $34.95 \div 35.40 \times 100 = 98.73\%$ が記録達成率となる。
- ・男子 1000m 派遣 B 標準記録以内の記録 1.10,30 を持つ b 選手の場合
派遣 A 標準記録 1.09,33 が上位派遣標準記録となるため、 $69.33 \div 70.30 \times 100 = 98.62\%$ が記録達成率となる。
- ・a 選手と b 選手のいずれが優位か決めなければならない場合、記録達成率の高い a 選手が優位となる。

3. FISU 冬季ワールドユニバーシティゲームズ (1/12~22、アメリカ合衆国・レークプラシッド)

【選考方針】

FISU 冬季ワールドユニバーシティゲームズで十分な活躍が期待でき、将来オリンピック等国際大会でメダル獲得が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

男子 10 名、女子 8 名

【実施種目および枠数】

ワールドユニバーシティゲームズ特別ルールにより、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子：500m (4)、1000m (4)、1500m (4)、5000m (3)、Ms (2)、TP (1)

女子：500m (4)、1000m (4)、1500m (4)、3000m (3)、Ms (2)、TP (1)

男女混合：ミックスチームリレー (1)

【選考基準】

対象選手：現役大学生及び卒業 1 年目の者で、1998 年 1 月 1 日から 2005 年 12 月 31 日の間に生まれた者とする。

対象競技会：第 29 回全日本スピードスケート距離別選手権大会

※ 選考は、距離別部門のみを対象とする。

- (1) 男子 500m、男子 1000m、男子 1500m、男子 5000m の出場枠のうち、それぞれ 2 名の派遣選手は、対象競技会における対象選手の中での当該種目の最上位者から順に選考する。
- (2) 女子 500m、女子 1000m、女子 1500m、女子 3000m の出場枠のうち、それぞれ 1 名の派遣選手は、対象競技会における対象選手の中での当該種目の最上位者を選考する。
- (3) 男女チームパシュート正選手 3 名と補欠選手各 1 名は、対象競技会における対象選手の中から、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、上記 (1) 及び (2) で選考された選手数も考慮に入れ、総合的な検討を加えながら、選考する。
- (4) 男女マスタート正選手 2 名と補欠選手各 1 名は、対象競技会における対象選手の中から、選

考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、上記 (1)、(2) 及び (3) で選考された選手数も考慮に入れ、総合的な検討を加えながら、選考する。

- (5) 残りの枠の範囲内で派遣選手を、対象競技会における対象選手の中から、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、メダル獲得の可能性を勘案して、選考する。
- (6) 男女混合リレーの正選手 2 名と補欠選手男女各 1 名の選考は、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考する。
- (7) 選考された選手のコンディション不良や新型コロナウイルス (COVID-19) 等の不測事態に備え、対象競技会における対象選手の中から、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、派遣リザーブリスト登録者を男女各 2 名ずつ選考する。

~~(7) (8) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。~~

【特記事項】

- ・ 本競技会への派遣に際し、日本スケート連盟による派遣 B 標準記録 (後述) は適用しない。
- ・ ワールドユニバーシティゲームズ大会規定に変更があった場合、強化部委員会で選考基準を見直す場合がある。

~~—上記以降の国際競技会における選考基準は、ISU による国際大会の詳細に関する通知がなされた後に決定する。~~

- 4. ワールドカップ第 5 戦トマショフマゾウィエツキ大会 (2/10~12、500m・1000m・1500m・女子 3000m・男子 5000m・Ms・TP)・第 6 戦トマショフマゾウィエツキ大会 (2/17~19、500m・1000m・1500m・女子 3000m・男子 5000m・Ms・TS)

【選考方針】

世界スピードスケート選手権大会における日本の出場枠拡大を目指し、日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

男子：500m (5)、1000m (4)、1500m (5)、5000m (5)、10000m (5)、Ms (2)、TP (1)、TS (1)

女子：500m (5)、1000m (4)、1500m (5)、3000m (5)、5000m (5)、Ms (2)、TP (1)、TS (1)

【選考基準】

対象競技会：第 90 回全日本スピードスケート選手権大会 (距離別部門のみ)

- (1) ワールドカップ第 1 戦~4 戦において、Division A で 3 位以内の成績を 2 回以上収めた選手は、当該種目について最大枠数に達するまで、選考する (チームパシュート、マススタートおよびチームスプ

リントは除く)。最大枠数を超えて該当者がいる場合は、上位 2 大会の順位の平均値での優劣を比較することとする。それでも優劣を決しない場合は、第 90 回全日本スピードスケート選手権大会（距離別部門）の当該種目の順位で優劣を決することとする。

- (2) 上記(1)で選考された選手を除き、各種目最大枠数に達するまで、第 4 戦終了時 SQRL^{注 3} 掲載選手（リザーブリスト含む）を最上位者から順に選考する。
- (3) 上記(1)と(2)で選考された選手を除き、対象競技会において派遣 S 標準記録以内の選手は、当該種目について各種目最大枠数に達するまで選考する。また上記(2)の時点で、選考された選手が最大枠数に達している場合、上記(1)と(2)で選考された選手以外で、対象競技会において派遣 S 標準記録以内の選手は、当該種目について、上記(2)で選考された選手の中で、選考された種目において対象競技会で派遣 S 標準記録を達成しなかった選手と入れ替えて選考する。この場合、入れ替えの対象となる選手は第 4 戦終了時 SQRL で最下位の選手となる。入れ替えは各種目最大 1 名までとする（複数の該当者がいる場合、当該種目上位者のみ対象とする）。
- (4) 上記(1)から(3)までで最大枠数に至らない場合、上記(1)から(3)で選考されなかった、かつ本年度派遣 B 標準記録以内の記録（対象：本年度本連盟主催競技会またはワールドカップ第 1 戦・2 戦）を持つ選手の中で、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考方針等を総合的に考慮して選考すべき選手、と判断された場合、選考する場合がある。
- (5) 男女チームパシュートの正選手各 3 名と補欠選手各 1 名は、ワールドカップ第 1 戦～4 戦の当該種目日本代表選手、または対象競技会にて男子は 1500m・5000m、女子は 1500m・3000m のいずれかの種目で派遣標準記録 B 以内の選手の中から、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考方針を踏まえた総合的な検討によって選考する。また、必要に応じて、当該派遣選手団の中から出場可能な選手 1 名を補欠に加えることができる（この場合の補欠の優先順位は 2 番目とする）。
- (6) 男女マススタートの正選手各 1 名は、第 4 戦終了時 SQRL 最上位者を選考する。各補欠選手含めた残りの派遣選手は、ワールドカップ第 1 戦～4 戦日本代表選手（マススタート以外も含む）、または対象競技会にて男子は 1500m・5000m、女子は 1500m・3000m のいずれかの種目で派遣標準記録 B 以内の選手の中から、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考方針を踏まえた総合的な検討によって選考する。
- (7) 男女チームスプリントは、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (8) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中における練習状況などを総合的に検討し、選考時点の JOC ハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。
- ・ 本競技会（第 5～6 戦）は、当該年度の世界スピードスケート選手権大会の出場枠獲得対象競技会となる。

- ・ 本年度の本連盟主催競技会またはワールドカップ第1戦・2戦において派遣SS標準記録を上回った者が、新型コロナウイルスの影響で対象競技会への参加が妨げられるなどの不測の事態となった場合、選考方針を踏まえた総合的な検討によって、上記【選考基準】に従って選考された者に変えて、選考する場合がある。なお、この場合の対象は、今年度の派遣SS標準記録を上回った種目に限る。

※注3「第4戦終了時SQRL」について

第6戦終了時にSQRLがISUから公表されるが、第4戦終了時に途中経過のSQRLが公表されるかどうかは不明である。よって、ISUから第4戦終了時に速やかに公表されない場合、本連盟強化部がISUのSQRL作成規則に則り独自に作成したものを「第4戦終了時SQRL」として代替利用する場合がある。

5. 世界スピードスケート選手権大会（3/2～5、オランダ・ヘレンベーン）

【選考方針】

世界スピードスケート選手権大会で十分な活躍が期待できる選手の中から選考する。

【派遣可能人数】

制限なし

【枠数】

ワールドカップ第1～6戦までのポイントランキング及びタイムランキング（SQRL）により、以下の国別最大枠数が割り振られる。

男子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、5000m（3）、10000m（2）、Ms（2）、TP、TS

女子：500m（3）、1000m（3）、1500m（3）、3000m（3）、5000m（2）、Ms（2）、TP、TS

【選考基準】

対象競技会：ワールドカップ第1～6戦、第90回全日本スピードスケート選手権大会（距離別部門）

- (1) 枠数の範囲内で、ワールドカップ第1戦～4戦において、DivisionAで3位以内の成績を2回以上収めた選手は、当該種目のみ各種目最大2名まで選考する（チームパシュート、マススタートおよびチームスプリントは除く）。複数名の該当選手がいる場合においては、上位2大会の順位の平均値での優劣を比較することとする。それでも優劣が決しない場合は、第90回全日本スピードスケート選手権大会（距離別部門）の当該種目の順位で優劣を決することとする。
- (2) 上記(1)で選考された選手を除き、ワールドカップ第1戦～6戦のワールドカップ競技力^{注4}最上位者から順に、最大枠数に至るまで選考する（女子5000m、男子10000m、チームパシュート、マススタート、およびチームスプリントは除く）。
- (3) 女子5000m、男子10000mの各代表選手について、第90回全日本スピードスケート選手権大会（距離別部門）において派遣S標準記録以内で最上位の選手を選考する。該当者がいない場合および残りの枠は、SQRLに掲載された最上位者から順に選考する。
- (4) 男女チームパシュート代表選手（補欠含む）は、本年度ワールドカップの当該種目にエントリーした選手（補欠含む）の中から、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考方針を踏まえた総合的な検討によって選考する。
- (5) 男女マススタート代表選手は、ワールドカップ当該種目出場選手の中から選考する。男女各1名は、

ワールドカップ第1～6戦で、2回以上決勝に進出した選手を選考する。複数名の該当選手がいる場合においては、上位2大会の決勝順位の平均値での優劣を比較することとする。それでも優劣が決しない場合は、上位3大会の決勝順位の平均値で優劣を決することとする。残りの枠は、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、選考方針を踏まえた総合的な検討によって選考する。

- (6) 男女チームスプリントは、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、当該派遣選手団の中から出場可能な選手を選考し、エントリーする場合がある。
- (7) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・SQRLにおけるリザーブリストの活用による出場枠の再配分がなされた場合、この時点において、出場可能な選手を、移動にかかる時間的な制限（フライト予約等）を含めて総合的な検討を加えながら、選考する場合がある。
- ・男女チームパシュートにおける正選手と補欠選手との入れ替えは、遠征中におけるワールドカップの成績や練習状況およびコンディション状況等を総合的に検討し、選考時点のJOCハイパフォーマンスディレクター、スピード部長及びスピードスケート強化部長の協議により、必要に応じて行うものとする。

※注4「ワールドカップ競技力」について

男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mにおいては、ワールドカップ第1～6戦のそれぞれについて、種目ごとにディビジョンAおよびBの全レースを対象としたタイムランキングを作成する。その後、出場選手ごとに、ワールドカップ第1～6戦におけるタイムランキングの順位の中央値及び平均値を求め（算出方法詳細は下記参照）、いずれか良い方の値を当該種目におけるワールドカップ競技力とする。

※それぞれの種目における中央値及び平均値の算出に使用するレース数（データ数）は下表の通りとし、各選手の好成績のレースから必要データ数の分だけ抽出することとする。なお、ディビジョンAおよびBの全レースを対象としたタイムランキングの作成において、出場辞退・棄権（途中棄権含む）・失格はいずれも当該レース出場者における最下位（タイムを有する者の次の順位）として扱う。

	男女 500m	男女 1000m	男女 1500m	女子 3000m	男子 5000m
ワールドカップ第1～6戦実施レース数	6	6	6	5	5
中央値及び平均値算出使用レース数	3	3	3	2	2

※例えば、ワールドカップ第1～6戦の男子500mにおける各レースのタイムランキングが次の通りであった場合、中央値及び平均値は次の通り算出される。

	WC 第1戦	WC 第2戦	WC 第3戦	WC 第4戦	WC 第5戦	WC 第6戦	中央値	平均値
日本選手①	1	3	1	52	21	24	1	1.67

日本選手②	3	12	7	7	8	9	7	5.67
日本選手③	6	6	9	8	14	11	6	6.67

- ※補欠起用として出場したレースであっても、当該レースはワールドカップ競技力の算出対象とする。
- ※使用レース数が足りない場合、不足しているレースは当該レース出場者における最下位として扱う。
- ※本選考基準でのタイムランキング作成においては、100分の1秒までのタイムを適用し、この定義の下に同タイムであった場合は同順位として扱う（100分の1秒表記でのタイムが同タイムであった場合にのみISUによって適用される1000分の1秒の値は本選考基準におけるタイムランキング作成では使用しない）。
- ※ワールドカップ競技力が同じ値であった場合、ワールドカップ競技力として採用しなかった中央値又は平均値のいずれか一方の値を比較し、上位者を優先する。この値も同じであった場合は、ワールドカップ競技力算出に用いた各レースにおけるタイムランキングを比較し、より上位のランキングを有する者を優先する。

【ISU ワールドカップ参加標準記録】

女子			男子		
	カルガリー ソルトレークシェイ ウルムチ	その他		カルガリー ソルトレークシェイ ウルムチ	その他
500m	39,50	40,00	500m	35,70	36,20
1000m	1.19,00	1.20,00	1000m	1.11,00	1.12,00
1500m	2.00,50	2.02,00	1500m	1.49,00	1.50,50
3000m	4.19,00	4.22,00	5000m	6.40,00	6.45,00
5000m	7.23,00 又は 4.11,00(3000m)	7.33,00 又は 4.14,00(3000m)	10000m	13.30,00 又は 6.28,00(5000m)	13.40,00 又は 6.33,00(5000m)

- ※ 対象競技会は、~~2020~~2021年7月1日以降に開催されたすべてのISUメンバーに参加資格が与えられている国際競技会（ISUルール第107条4項に従う）、全日本スピードスケート距離別選手権大会、全日本スピードスケート選手権大会、全日本ジュニアスピードスケート選手権大会とする。
- ※ マスタート、チームパシュート及びチームスプリントにエントリーするためには、少なくとも1つの参加標準記録を達成していなければならない。なお、これらの種目については、500mから10000mまでの上記参加標準記録を達成していなかったとしても、男女それぞれ最大1名のみ、特別の参加標準記録（1500mにおいて、女子は2.11,50、男子は1.59,00）を達成していればエントリーすることができる。
- ~~※ 上記の記録は2021/2022シーズンのものであり、2022/2023シーズン（今シーズン）のものはISUによって変更される場合がある。~~

【派遣標準記録】

女子					男子				
	SS 標準	S 標準	A 標準	B 標準		SS 標準	S 標準	A 標準	B 標準
500m	37,59	37,82	38,20	39,07	500m	34,61	34,74	34,95	35,43
1000m	1.14,59	1.15,36	1.16,13	1.17,98	1000m	1.08,64	1.08,93	1.09,33	1.10,41
1500m	1.56,08	1.56,79	1.57,82	2.00,67	1500m	1.45,65	1.46,01	1.47,04	1.48,84
3000m	4.03,77	4.05,57	4.08,15	4.15,10	5000m	6.17,54	6.21,89	6.24,52	6.31,40
5000m	6.57,66	7.00,32	7.08,75	7.19,63 又は 4.15,10 (3000m)	10000m	12.57,78	13.07,74	13.15,80	13.30,94 又は 6.31,40 (5000m)

※ 対象競技会は、2022年7月1日以降に開催された日本スケート連盟主催大会とする。なお、各国際競技会の選考基準において対象競技会が指定されている場合は、その内容に従う。

※ 男女500m、男女1000m、男女1500m、女子3000m、男子5000mについては、2019年度及び2021年度WC（カルガリー・ソルトレークシティー、最終戦以外）の各種目1番目のタイムの平均値をSS標準、3番目のタイムの平均値をS標準、各種目8番目のタイムの平均値をA標準、各種目25番目のタイムの平均値をB標準とした。また、女子5000m、男子10000mについては、2018年度WCトマショフマゾウィエツキ大会、及び2019年度ヌルスルタン大会、及び2021年度スタヴァンゲル大会の各種目1番目のタイムの平均値をSS標準、3番目のタイムの平均値をS標準、各種目8番目のタイムをA標準、各種目20番目のタイム又は女子3000m、男子5000m各種目B標準の記録を、B標準とした。